

ふるさとをしのぶ

東京白根会
が24回巡回

二月十五日、渋谷万葉会館で、第二十四回東京白根会総会が開催されました。
本市からは、市長をはじめ県議会議員、市議会議員、風合戦協会役員など多数が祝いに駆けつけ、この日集まった会員約百八十人と「ふるさと」の話しに花が咲き、終始和やかな雰囲気。
この日は役員改選が行われ、阿部徳治幹事長が新副会長に、後任の幹事長には神田良七氏がそれぞれ選任され、引き続き会の運営に当たることになりました。



スキーで仲間づくり

野外活動交
歓のつどい

スキー交流を通じて仲間づくりを進めようと、一月三十一日と二月一日の二日間、妙高新赤倉スキー場で野外活動交歓のつどいが開かれ、青年のサークルや団体などから三十九人が参加しました。
吹雪というあいにくの天気のため、予定されていた雪上レクは中止されましたが、青年たちは初心者、初・中上級クラスに分かれてのスキー教室などで、楽しみながら仲間の輪を広げていたようです。



ジャンボカルタ大会も

白根小で
雪まつり

地域の伝統行事を見直し、雪に親しもうと、二月三日、白根小学校で児童会が主催して三回目の「白小雪まつり」が行われました。
火の神が入場すると、児童は勉強、健康など誓いの言葉を述べて点火。それぞれ願いを込めて、書き初めやするめを焼いていました。
炎が大きく燃えつれて青竹の破裂音が鳴り、そのたびに児童の歓声が上がります。ある一年生は「白小に入れ、するめが食べられて幸せ」と初体験の喜びをかみしめていました。この後は、体育館で「手作りジャンボカルタ大会」を行いました。



勇気を出して話した8人

婦人実績
発表会

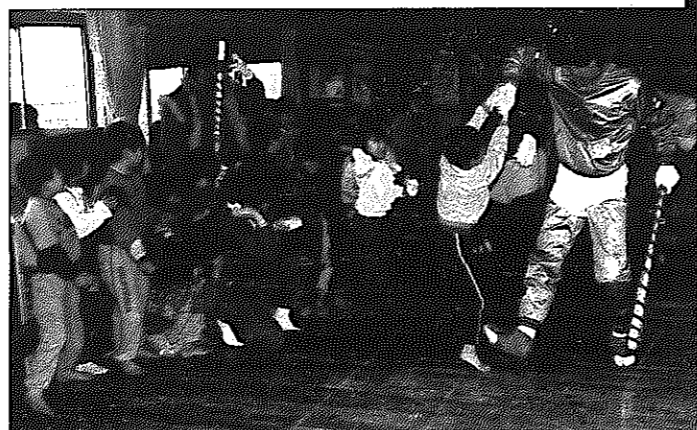
市連合婦人会では一月二十五日、産業厚生会館で実績発表会を開きました。これは、日ごろおおぜいの人の前で話す機会のない婦人が、自分の意見や体験を発表し、話す勇気と発表する力に身につけようと毎年開かれており、これまで百四十人余りの会員が発表を経験しています。
十七回目の今回も、会場に集まった婦人ら約三百九十人を前に、市内各地区の代表八人が発表しました。
この中から代表として長谷川小夜子さん（高井興野）が、今月十六日に新潟市で開かれる県の実績発表会に出場することになりました。



鬼を呼ばばいい子になる?

市連合
青年団

節分の二月三日、市連合青年団（近藤一博団長）のメンバー八人が、鬼にふんして七保育園を訪れました。
午前十一時過ぎ、白根保育園に太鼓を打ちながら鬼が現れ、大声で「いじめっ子やおこりんぼはいないか」と連れ去ろうとすると、泣き出す子や逃げ惑う子、「いないよ」と反論する子、保母さんにしがみつく子たち。かなり怖い鬼でしたが、ようやく元気を取り戻した園児たちが「鬼はー外」と一斉に豆を投げ始めると、鬼はたまたま退散していききました。
保育園を訪問するのは今年で五回目。親からは「鬼を呼ぶ」と言うといい子になる」と喜ばれています。



銅板ぶき工事の技能講習

市板金
工業組合

神社仏閣などによく使われている銅板ぶきの屋根。最近是一般家庭のひさしなどにも利用されています。市板金工業組合・小笠原昭衛組合長・組合員二十八人では昨年に続き、中ノ口川沿線経済振興協議会との共催で、一月二十七日と二十八日の二日間、勤労者福祉センターで銅板ぶき工事の技能講習会を開きました。
小笠原組合長は「銅板は品質がよく長持ちしますし、円高で値段も下がったことから年々需要が増えていきます。組合としては自信を持ってお客様に銅板ぶきを勧められるよう、これからもこのような講習会で技術を高めていきたい」と話しています。



思いやる心

地域社会とボランティア

なんでもできる

ゆかりちゃん

「たぐいまゝ」幼稚園から帰ったゆかりちゃんは、自分のことは自分でちゃんと始末ができる子です。靴を下駄箱にそろえて入れ、かばんをかばんかぎに掛けます。自分のことだけではありません。家の手伝いをよくします。買い物や留守番をします。洗濯物をたたんで小引き出しに入れるのは得意中の得意です。靴下は、左右そろ

えて上部を折り込んでおくとバラバラにならないで使いやすいものですが、ゆかりちゃんは忘れずにそうします。これは、おばあちゃんの手紙です。
「この靴下は左右兄弟だから、離ればなれになつたらかわいそうだからね」。こう言いながら始末をしているおばあちゃんの話が、ゆかりちゃんを驚かせていたようです。夜寝る前には、火の用心のためバケツ一杯の水をくんでおきます。これもゆかりちゃんの役目です。

祖母から伝わった優しさ

祖母の生きざまは
孫への福祉教育

ある日のことです。ゆかりちゃん、おばあちゃんに頼みごとをしました。「おばあちゃんにお願いしたいと思うけどいいですか」と。許しを得たゆかりちゃんは、ぬいぐるみのお人形を手にして、友達の家へ飛んでいきました。
ゆかりちゃんがなんの苦もなく優しさを自然に表現できるのはど



うしてでしょうか。訳はおばあちゃんにあるようです。おばあちゃんは七十歳ですが、とても元気です。「自分のことは自分でしななな」というのがおばあちゃんの特徴です。そのうえ、いつも家族のことを思っていて心配りをします。さらに、おばあちゃんは十五種

類のボランティア活動をしています。道路清掃、空き缶拾い、花壇の手入れ、古切手集め、独り暮らし老人への声かけと、気づいたらこんなに増えていたというのです。おばあちゃんはどうもこれもみんな、実に楽しくやっています。
ゆかりちゃんは、きっとこのおばあちゃんの影響を受けたに違いありません。おばあちゃんのボランティア生活は、身をもってする孫への福祉教育でもあったのです。

淑徳短期大学教授、前全国ボランティア活動振興センター所長
木谷 宜弘